

すこやか

第24号

平成24年4月
発行

岐阜県総合医療センター
地域医療連携センター一部

後遺症なき生存と赤ちゃんと お母さんにやさしい病院を目指して

岐阜県総合医療センター 主任部長兼新生児内科部長
新生児医療センター長 河野 芳功



岐阜県総合医療センターは、平成20年2月に総合周産期母子医療センターの指定を受け、岐阜県における周産期医療の最後の砦として24時間体制で診療を行っています。新生児部門である新生児医療センターはNICU12床、回復期病床28床（長期入院対応5床含む）を有し、8名の新生児内科医師と1名の後期研修医が二交替制で勤務を行っています。平成23年度の診療実績は、入院数356名で、極低出生体重児は54例。そのうち超低出生体重児は25例でした。新生児搬送車“すこやか号v3”出動件数は169件で、出動の内訳は、NICU収容116件、小児循環器病棟収容8件、他院への三角搬送20件、戻り搬送17件、出動のみ8件でした。手術件数は、小児外科20件、小児脳神経外科11件、動脈管閉鎖術を主とした小児心臓外科8件、気管切開術1件で、執刀医と共同して術前術後管理も新生児内科医師が行っています。

当新生児医療センターでは以前より「後遺症なき生存」を合い言葉に診療を行っており、新しい治療法にも積極的に取り組んでいます。平成22年度に低体温維持装置

とaEEGモニターを導入して新生児低体温療法ができる環境を整え、低酸素性虚血性脳症（HIE）の治療に威力を発揮してくれていますし、今年度は新生児に適用可能な血液浄化装置を導入しましたので、より重篤な症例の救命が可能となるものと期待しています。

また、当院では平成21年度より赤ちゃんとお母さんにやさしい病院を目指して、母乳育児支援に病院を挙げて取り組みを行っています。新生児医療センターでは、以前より母乳育児を推進していましたが、現在は産科病棟助産師と共同しつつ、カンガルーケアやファミリーケアルームの活用を通じて、NICUに赤ちゃんが入院してもちゃんと母乳育児ができるよう支援を行っています。

ところで、新生児医療センターには以前はHIEや先天異常などが原因で長期入院となるお子さんがあふれて、新規入院受け入れが困難となる状況がしばしばありました。数年前より、登録医の先生方とご家族のご協力を得ながら、在宅医療を徐々に推し進めております。今後も在宅医療を推進していきたく思っておりますので、よろしくお申し上げます。

新型自動精算機を導入しました



診察後のお支払いをスムーズ（待ち時間の短縮）に行っていただくため、最新の自動精算機を3台導入しました。

「使い方がわからないから」と最初は敬遠される患者さんも一度使っていただくと、「早くて便利になったねえ」と驚かれることが多いようです。

クレジットカードでのお支払いも可能です。（ただし、暗証番号入力が必要です。）支払いの際には、是非一度、自動精算機をご利用ください。

連携医の紹介

後藤クリニック

院長 後藤 尚己

岐阜県総合医療センターの諸先生方をはじめスタッフの皆さん、近隣の先生方には平素より大変お世話になっております。誠にありがとうございます。緊急の症例において常に救急対応していただける貴施設の存在はいつも心強く感じており、私のみならず当院のスタッフ、当院通院中の患者様方も安心しておられることと思います。私も開業前の勤務医時代は救急医療に携わっていた者として、常に救急対応していただくことの困難さは理解しており常に感謝しております。

さて当院は県総合医療センターから南へ2km、名鉄各務ヶ原線の切通駅の北の田んぼの真ん中に、平成17年2月中山道沿いの旧後藤医院から父の後を継ぎ移転開業いたしました。冬にクリスマスイルミネーションで光っているクリニックと言ったほうがわかりやすいでしょうか（実はイルミネーションは業者がつけているわけではなくて、自分達でつけております）。

開業前は主に循環器内科として病院に勤務し、その中で色々な疾患の診療に従事し心臓エコー検査、心臓リハビリテーションなどに興味もあり臨床の傍ら臨床研究も行っておりました。その中で培った知識を中心に現在診療を行っております。クリニックにおいて、心エコーはもちろん生活習慣病に伴う動脈硬化の検



索として頸動脈エコーは大変有用であり、その結果の説明が患者様の治療のモチベーションにつながると信じ、日々診察前の30分に行っております。

そのような少し専門性もある診療もしておりますが、私は二代目ですのでこの地域の出身です。長森南小学校、長森中学校（われわれの頃には長森南中学校はありませんでした）の卒業生で、県総合医療センターのスタッフの中にもその頃と同級生が何人かみえます。さらに現在当院に通院して下さっている患者さん方の中には私を子供の頃から知る方も多くみえられ、親しみを込めて名前に『ちゃん』を付けて呼ばれることも日常です。

このような中ですので主に専門医というよりも家庭医として多岐にわたる疾患を診療する機会が多いのが実情です。ですから県総合医療センターの多岐にわたる専門医の先生方をいつも頼りにし、御高診をいただき治療方針を決定もしくは修正させていただいております。そのことで私自身診療に明確な裏付けができ、患者様への明解な説明へつながり患者様の満足につながっております。

最後に、救急の場面でそして日常の診療の中で大変頼もしく頼りがいのある病院が近くにあり、病診連携の中で伴に診療できることを幸せに感じております。この場をお借りしてお礼を申し上げます。



診療科の紹介

泌尿器科

泌尿器科部長 高橋 義人

手術支援ロボット(ダ・ヴィンチ)による前立腺がん治療のご紹介



平成25年2月1日に最新式の手術支援ロボットダヴィンチSiが手術室に設置されました。(この手術支援ロボットダヴィンチSi施行のためには厚生労働省

指導で、4段階の研修とその終了証明書が必要となります。)平成25年3月下旬に治療を開始できるように手術施行医師・麻酔科医師・看護師・臨床工学技士と治療チームを作り実際の治療に向けての準備・研修が始まっています。

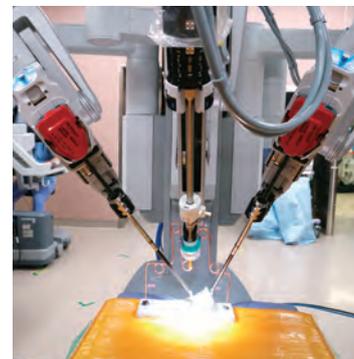
今回はこの手術支援ロボットダヴィンチSiをご紹介します。ロボット本体は3次元視野が提供できる視覚系と手術遂行



のための操作アームが3本あります。手術施行医師は患者から離れてサージャンコンソールでロボットを操作して治療を進めます。3本の操作アームは、ヒトの関節以上の動きが可能で“自由度7”を有しており、より複雑な作業が可能となります。

この手術支援ロボット

は10数年前にアメリカで開発され、すでに世界各国で臨床に用いられています。これに対して、日本では昨年ようやく前立腺がんの手術に対してのみ保険診療が認可されました。手術支援ロボットは潜在的には素晴らしい能力をもった支援装置です。安全・確実な手術・治療を進めつつ、この手術支援ロボットを使った治療が広がるように努力して参りたいと考えております。



折り紙をしているロボット

循環器内科

循環器内科 医師 後藤 芳章

近年、動脈硬化に伴う大動脈疾患が増加してきています。胸腹部大動脈瘤の多くは無症状で、超音波検査やCT検査で偶然発見されます。しかし、大動脈瘤が破裂した場合は、緊急手術を行っても死亡率は30~50%といわれています。治療は基本的には人工血管置換術で、胸部では血管径60mm以上が、腹部では50mm以上が手術の目安となります。



治療前

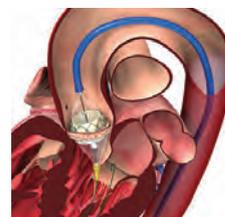


治療後

最近、大腿動脈からカテーテルを用いてステントグラフトと呼ばれる人工血管を病変部に留置するステントグラフト内挿術が行なわれるようになってきました。当院においても循環器内科と心臓血管外科が協力して、全身状態や大動脈病変形態を検討したうえで適応を決め、年間約50例のステントグラフト内挿術を施行しています。ステントグラフト治療は、血管内治療が主ですが、大動脈から分枝する血管の再建が必要な場合は、外科的な手術と血管内治療を同時に施行するハイブリッド手術を行ないます。ステントグラフト治療お

びステントグラフトを用いたハイブリッド手術は従来型手術と比べて体と与える負担が少ないのが利点で、術後の回復が早いだけではなく、従来なら手術困難とされた高齢者や他の合併症をもつ例でも手術が可能となる場合もあります。そのような症例に対する治療も積極的に行っております。

今夏には、ハイブリッド手術室が新たに整備され、外科手術と血管内治療を同時に行えるようになり、本格的なハイブリッド手術が可能となります。近い将来には、経カテーテル的大動脈弁置換術(カテーテルで大動脈弁を治す手術)が行われるようになりますので、これら新しい手術に対応できるよう準備を進めています。



経カテーテル的大動脈弁置換術



本年より、月曜日午後には血管外来を開設しましたので、症例がありましたら気軽にご相談ください。

地域医療連携センター部からのお知らせ

開放型共同診療に是非お越しく下さい

開放型登録医認定証の更新時には、お忙しいところアンケートにご協力いただきまして誠にありがとうございました。登録医の皆様から、多くのお褒めの言葉と共に、忌憚のない大変貴重なご意見を多数賜りましたこと深く御礼申し上げます。

いただいたご意見の中には、共同診療の方法や駐車場に関するものがいくつかございました。今回の紙面を利用して、共同診療の方法についてご紹介させていただきます。

- ①お越しいただく日時・患者氏名を連携室に電話ないしFaxでご連絡ください。
- ②連携室は駐車場を空け、病棟に連絡をとり先生のお越しをお待ちしております。
- ③駐車場は指定駐車場をご利用ください。警備員がフェンスを空けてお待ちしている予定です。



正面玄関東側に設けられた指定駐車場 (4台分)



エントランスホールに掲載されたパネル (連携室はこの裏になります)

一般駐車場をご利用になられた場合には、駐車券は無料化させていただきます。

- ④エントランスホールに入ってすぐ右のドアが連携室です。中にスタッフがおりますので声をかけください。



初めまして、エントランスサポートスタッフです。

患者さんの車からの昇降や車椅子への移送介助のため、1月から正面玄関にて待機しております。
「磐下です。よろしくをお願いします。」

- ⑤電子カルテ上で診療情報を確認していただきます。
- ⑥白衣・聴診器は当方で準備させていただきます、病棟・病室まで連携室スタッフがご案内いたします。
- ⑦ご希望により主治医にも可能な限り連絡調整させていただきます。
- ⑧共同診療後は連携室にて、電子カルテ上に診療記録を残していただき、「開放型病院共同指導料」を算定していただけます。(算定しないことも可能です)
- ⑨診療記録は印刷しお持ち帰りいただけます。自院での共同指導料算定にご利用ください。



現在は平日の17時15分までの時間帯で対応させていただきます。

是非共同診療にお越しく下さい。連携室スタッフ一同お待ちしております。

編集後記

岐阜県総合医療センター地域医療連携センター部新聞第24号をお届けします。病診連携に向けて、先生方に少しでもお役に立てる紙面を目指しています。ご意見、ご要望がございましたらお寄せください。お待ちしております。



地方独立行政法人
岐阜県総合医療センター

〒500-8717 岐阜市野一色4丁目6番1号
地域医療連携センター部直通 TEL (058) 249-0017
FAX (058) 248-9334

発行/岐阜県総合医療センター地域医療連携センター部